

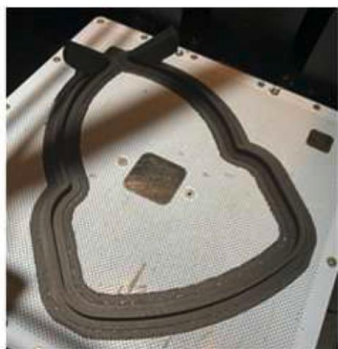


医療現場等で使用可能なフェイスシールドの活用について ～呉医工連携に関する懇談会～

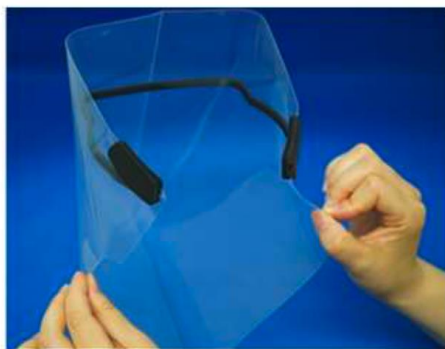
呉市が事務局を担う「呉医工連携に関する懇談会」の構成員でもある呉共済病院では、医療従事者への新型コロナウイルスの飛沫感染等を防ぐため、3Dプリンターで製作したフェイスシールドの活用が始まっています。

このフェイスシールドは、大阪大学が設計図等を公開[※]しており、3Dプリンターがあれば製作可能であることから、本懇談会のメンバーであり、既に当該製作を手掛けている広島県中小企業家同友会副支部長の高下氏（有限会社日本プラント設計代表取締役）から情報提供を受け、本懇談会においても情報を共有し、呉工業高等専門学校及び呉自社商品開発協議会の株式会社豊國の製作協力も得られることとなりましたので情報提供します。

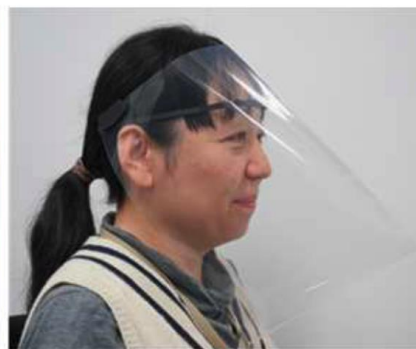
今後、呉市としても本懇談会を通じて医療機関と事業者の取組を支援するとともに、他の医療機関や特別養護老人ホームなど高齢者の介護現場でも活用できるよう、総務部及び福祉保健部と情報の共有を図りながら取り組む予定です。



3Dプリンターによるフレームの製作



クリアファイルを組み付けたシールド



装着時の外観

※大阪大学大学院医学系研究科の中島清一特任教授(常勤)達は、メガネフレームの世界的メーカーである「シャルマン」(福井県鯖江市)と連携し、世界初のクリアファイルをシールドに使う非常に安価なフェイスシールドの開発に成功しました。

さらに、フレーム部分の3Dデータを無料で公開し、世界中のどこでも簡単にフェイスシールドを製作できるようにしました。



